

沼城小学校児童が間伐・木工等の森林体験学習を実施しました！

令和4年12月2日（金）、周南市ふれあいの森（同市須々万本郷）において、同市立沼城小学校5年生児童35名を対象に、間伐・木工等の「森林体験学習」を実施しました。

この取組は、次代を担う子どもたちに、ふるさとの森林の大切さやそれを支える林業の役割などについて理解を深めてもらうため、林業研究グループ「徳山グリーンサークル」（会長：松原近志、会員15名）が実施したものです。

当日、児童は、小学校から「ふれあいの森」まで徒歩で約40分かけて移動し、二つの体験を二班に分かれて交互に実施しました。

一つ目の間伐体験では、林研会員がチェーンソーでヒノキを伐採する様子を見学した後、ノコギリを使って、枝払いや丸太切りを体験しました。間伐の前には、伐採する木の樹高当てクイズを行い、伐採後に答合わせをしましたが、見事に的中させた児童もいました。また、枝払い・丸太切りの体験では、大小二つのノコギリを上手に使いこなす児童もおり、みんな熱心に取り組んでいました。

二つ目の木工体験では、森林ボランティアグループ「ふれあいの森なんでも工房」の協力を得て、CDラックを作成しました。児童は、普段使うことのない、道具（カナヅチ、釘、キリ、ノコギリ）を手に、試行錯誤しながらも上手に完成させていました。

当日は、この冬一番の寒い日でしたが、児童は、森林の中での体験等で木の香りを満喫しながら心も体も温まる有意義な時間を過ごし、木のコースターとCDラックをお土産に帰路につきました。



樹高は何m？



丸太切り体験